

2022年7月22日

新型コロナウイルス感染症対策について（第27報）

兵庫県透析医会会長 石井洋治

危機管理委員会 和田義孝

日頃 透析医会の活動にご協力いただきありがとうございます。

“第7波”の急激な感染増加に対しまして、感染対策にご尽力いただいていることと存じます。すでに兵庫県下でも7月20日の時点で感染者数が第6波のピークを越えています。変異株BA.5はワクチン接種後や既感染者でも容易に再感染を起こす「免疫逃避」が特徴で、これまでより感染力は強いと考えられます。今のところ重症化の報告は稀のようですが、これから広がる高齢者や重症の基礎疾患を有する患者等を考えますと今後も予断は許されないと思います。

ご承知のように透析感染患者におきましては、軽症例は実際入院治療ができず、自施設での隔離透析が必要となっています。入院治療が可能な病院におかれましては引き続き受入れにご協力よろしくお願い申し上げます。

治療薬につきましては塩野義製薬の経口薬「ゾコーバ」の薬事承認が継続審議になりましたが、従来の経口薬「ラゲブリオ」の有効性が確認されていますので、ハイリスクの透析患者にはできるだけ早期の投与を推奨させていただきます。

すでに4回目のワクチン接種を進めていただいていると思いますが、60歳未満の透析患者につきましても早期の接種をお願いいたします。またこれまでも医療従事者が陽性者や濃厚接触者になり休職者が増え、医療機関のマンパワーが足りなくなるケースもみられますので、透析従事者への接種にも努めていただき、改めて感染防御を確認していただきたく存じます。

夏休みに入り、帰省家族との接触も多くなると思われますが、できるだけ濃厚接触を回避いただき、またこれまでもお願いしてきましたが通所介護などの利用も可能なら控えていただくようご指導ください。

またこの度兵庫県疾病対策課より透析医会に対して感染防護具の提供の申し

出がありました。有効期限が間近の防護具で無償提供とのこと。詳細につきましては近日中に連絡させていただく予定です。

お忙しい中大変申し訳ありませんが、感染発生に際しましては日本透析医会ならびに当医会事務局へのご報告を重ねてお願い申し上げます。当医会ではエクセルでの報告書を準備しております。日本透析医会の症例報告様式はホームページからご確認ください。現状の把握、行政への訴え等を行う上で、データがどうしても必要です。